

元気のツボ

＜37＞



徳島大学病院口腔外科

宮本 洋二

歯原性腫瘍は顎の骨の中にできる腫瘍です。ほとんどの方は気づかないと思いますが、発生頻度の比較的高い病気です。顎の骨だけに生じます。

体のほかの骨と比べて、顎の骨にはいろいろな腫瘍や、袋ができる病気の嚢胞が多く発生します。その原因は、顎の骨の中には、歯を作る細胞や作り終った細胞が大人になっても残っているためです。歯原性腫瘍はこれらの細胞から発生します。

歯原性腫瘍にはいろいろな種類がありますが、歯の表層のエナメル質を作る細胞が腫瘍化した「エナメル

歯原性腫瘍

顎の骨内の細胞から発生

上皮腫」、歯を作る細胞が嚢胞を作ることにより生じる「角化嚢胞性歯原性腫瘍」、歯の形成異常から生じる「歯牙腫」が代表です。

これらはやっかいなことに、初めはほとんど症状がありません。痛みもないために、かなり大きくなるまで気付かないことが多いのです。腫瘍が増大するとも、歯肉が膨らんだり、それによって顔が腫れたりし、顔の形が変わって初めて目覚めることもよくあります。時には、腫瘍によって歯が押されて、歯が揺れ出したり、歯並びが悪くなったりして気付くこともあります。

ただ、歯科医院で治療のために撮影したレントゲンで偶然に発見されることが

薬は効かず手術で除去

ほとんどです。

治療ですが、薬は効かないので、手術しかありません。腫瘍が小さい場合、口の中から切開して顎の骨に穴を開け、腫瘍を取り除くことができます。顎や顔の変形は治り、手術後の障害はほとんどありません。

しかし、腫瘍が大きくなると、顔に切開して顎の骨を切り取らなければなりません。この場合、顎や顔に変形が残ったり、唇の感覚がまひしたりしてしまいます。

さらに困ったことに、歯原性腫瘍は再発しやすいのです。また、歯原性腫瘍の中には悪性のものもあり、再発を繰り返しているうちにがんが発生することもあります。

顎を大きく切除した場合、私たちの病院では、手術後の顎や顔の変形と機能障害の回復のために、骨移植や歯科インプラントによる治療を行っています。切



下顎のふくらんだ部分(矢印)が歯原性腫瘍

のプレートでつなぎ合わせます。これによって自分の顎の形を元の状態に戻すように食べられるようになります。欠損した部分に骨を移植します。移植骨は腰骨や足の骨から採取します。

これで顎や顔の形は治せますが、顎とともに歯もなくなっていますので、十分に食べ物をかめません。そこで、移植した骨に歯科インプラントを植え込んで、人工の固定性の義歯を作り

ます。これで見え方も気付きやすくなります。また、普通の歯肉が、歯原性腫瘍は骨の中に発生するため見ただけでは診断できません。かかりつけの歯科医院で虫歯や歯周病の治療などの際に、エックス線検査をしてもらうことをお勧めします。